

# 咄 佛 徒

結 城 瑞 光

志あらむ者余の言を聴け！ 今現代の宗教界を達觀せば可驚可恐、混濁又腐敗大亡國の大邪法横行發展せり、今之を默過し不問に附さむか、共に無間地獄に墮在すべし、余茲に大決心を起し纏綿せる數多の情實を破棄し、爲國爲人飽迄奮闘せむと欲す、請ふ萬國の憂士揮て聲援を與へよ。

先外道權教に及ぶに先だち、我佛教徒を觀察するに、瀧汗頰額に流る、佛徒多くは錦欄を飾り僧階を欲し、愚夫愚婦を迷はせ、衷禮儀式を事とし寺門經營に吸々たる有様『咄佛徒！』嗚呼此墮落此無自覺、現代の佛教徒が其權威を失墜し、本佛教示の靈化の光り失せ、信仰の尊價漸く認められずあるは、皆是に起因する也。佛教てふ金玉も今や糞泥に埋れては世の總てより穢れしとて厭はるゝは當然の結果と云ふべし。群生救済の目的を以て、家を捨てし僧侶が寺門經營に耽溺し、忍辱降

魔の大禮服もて死人を遂迎し、以上に之を歓迎するの死物崇拜的事象を寧ろ能事とするに至りては殆ど驚駭昏倒せむばかりあり。然れど葬儀は祖先崇拜の美德の秀でたる日本、殊に信仰より必然に佛者の手を俟たざるを得ぬ觀念より起るものなれば、惡視するには非ず、唯能事とするを制するのみ。或小學校に於て一教師が生徒に次の如く質問せり。『寺院は何をなす處にや』生徒曰く『葬儀を執行する處かり』と。此一事深く寺院生活の何者かを語が如し。一小學生徒にすら現時の寺院生活を摘發せらるゝに徴して、如何に世人の腦裡へ一般的に深刻せしかを知るべし、此墮落せる寺院、之に附隨せる數萬の僧侶中、志念勝れし者此を自覺せる有りと雖も、尙煩悶困惑の狀態を繼續し、發表を躊躇するもの多し、されど余は孰れの煩悶の險路も踏破し、自覺の世界に雄飛せんとするものなり。憂士よ、余等は道の爲に身を捧げ定戒を修するは、悉く無上道を体し、他をして亦心靈の安住所、生活、進退の歸依處に依らしむる爲に出家

せしには非ずや。月藏經には正しく現時法滅の慘狀を説き、勝鬘經には將しく折伏の時代來れるを示せり。噫、今や寒心すべき宗教界をして洗淨する聖戰に依つて大革命を惹起し、令法久住以つて佛恩に報ずべき好機會は來れり。此聖戰こそ佛教の權威、佛陀慈光の復活、僧寶の尊嚴なる出興にして進擊的態度の日蓮門下の急務である。されば千古不世出の偉人大聖日蓮は、建長五年の朝より弘安五年の夕に至る、殆んど三十年間瓦石刀杖の妨害も、遠流斥出の大難小難交々迫るも、自己の所信即ち佛教大革命の爲に天下を敵とし大奮闘を試みて、我等行者に好模範を垂示せり、何程に大聖日蓮をして偉大からしめたる宇宙の大靈たる久遠本佛の妙力は、更に偉大には非ずや。然り大聖の信仰は其活動をして直ちに大靈の發動とせるあり、又或は永享年中久遠成院親師又は慶長年間常樂院經師等の先哲諸師が禁獄々門の慘形肉体的極刑も敢て之を辭せざりしは、祖師を通じて久遠の本佛の威靈に感せし所ありたればあり。然るに日

蓮門下と名くる者此の意向は疎か、未知の寄生虫すら發生するに到りては憤淚潜々豈止むを得んや。古來日蓮主義者が血と生命とによりて、報國殉法したる勇猛熱烈ある信仰の節義を現代に復活せむとするは、現代宗教の衰微にありて日蓮門下方今の大責任あり。從來宗教發展政策上宗教の貴族のとあれば其宗教は既に亡びたるなり。所謂貴族の布教の不可を鑑み、先師先哲の標榜せる日蓮魂を發揮し、平民的立脚より昏睡状態にある國民、否人類をして革新的に覺醒すべく努力せざる可からず。之れ宗教刷新佛教革命の急先鋒たる日蓮主義に於て始めて擧る。輕薄なる世間、滔々墮落に流る社界より、日蓮主義の硬骨的布教には喜ばずとするも、世諺に『可愛い子には旅をさせよ』の譬あり。邪法惡思想に對しては大打撃と云ふべし、されど親子關係慈悲垂下たる以上は止むを得ざる也。故に瞬時其勢力乏しと雖も。一度勢力を得むか炸藥爆裂して作す所に作さしむ。そは其の根柢の鞏固にして他の何物をも之を侵し得ざればなり

換言せば唯一絶對の宗教は遂に最後を成せり、余等宿植甚厚の至す所にや、此難値の宗教に出會し難生の末法に遭遇せしは佛天の加護に非ずして何ぞ、幸なる哉。唯一絶對の宗教時代は唯一絶對の宗教を要求せり、社界は時と共に複雑に、人心は彌々沒道義に趨りつゝある今日の時勢の推移を察し、講談的説教或は學者氣取の演説が腐敗せる社界を教化し指導する事を得むや、知らずや義務的の説教演説は社界を益する事貧弱なるを。事實宗教の前途を憂ふる者、國家の安寧を計る者、宜しく宗教の撰擇に注目し、弘教の時期を齟齬せしめず、不安懊惱に包括せられし思想界を廓清し、混沌たる宗教界をして大刷新なさざる可らず、現今の時勢は日蓮主義勃興を益々顯著ならしめたり。何とあれば時代の要求にして革新的面目の躍如たるあればあり。

請ふ天下の憂士、余の微衷を慙み以て此大信念を扶育せしめられん事を切に希望して止まず。

未法既に五百年 邪教邪軍は押寄せり

永世の闇の夢醒めて 昨日に變る今日は唯  
正法護持の旗を立て 折伏逆化の鋒を取り  
獅子奮進の勇起こし 又向ふ敵を討ち鎮め  
一佛來に歸するまで ともに立たなん軍場いくまちは

## 意義ある生活

正 己

吾等は如何に生くべきかの問題は、最近に至つて著るしく眞面目に考へられる様になつて來た。徒らに文字を弄する思索的遊戯に止らず、實際的に深き考察と強烈な要求となつて現はれて來た。生さんとする心！ 此れは人間に限らず動物の共性有である。で人間も亦如何にもして生さんとする欲望を有して居る、然し此の欲望が何故生じて來たかは如何なる宗教家と雖も知り得ざる所である。が兎に角己に生さんとする欲望を有する以上、生さると云ふ事が目的であり又生さる事に大なる價值があるのである。